

依つて軍三月十日頃より所在航空關係部隊を以て之が破壊を開始し三月末頃には機械力發達せる米軍と雖も之が補修には十日を要すべしと判断せらるる程度に作業進捗せり

### 十三、後方準備

#### 1. 兵器關係

比島作戰の絕望状態に入るや大本營は同方面に輸送中の兵器を軍に交付せり其の概數左の如し

小銃 數千

輕機 約四百

重擲彈筒 右と略々同數

重機 約二百

速射砲及機關砲 各約十

右兵器は第一線部隊及特設部隊に交付せり之が爲步兵兵器は著しく充實し主陣地帯一軒正面輕機、重擲各々約二十五、重機約十の密度となれり

#### 2. 彈藥關係

各種火器概ね一會戰分(野戰重砲及高射砲)に在りては一會戰分強を保有し殆其の全數を第一線兵團部隊に交付保管せしめたり但し輕迫撃砲は一門あたり僅かに三百發を保有するに過ぎず陸海軍合して二百門に餘る有力なる迫撃隊が二十分間の發射彈數を有するに過ぎざるが如きは實力零に等しと謂はざるべからず軍は昭和十九年秋以來百方手段を盡て彈藥の充實に奔走せしも目的を達せず戰鬪勃發直前に漸く中央より代用彈として九二式步兵砲彈藥約十萬發の交付を許可せられたり

然れども時機既に遅く其の大部は輸送途中奄美大島附近に於て海没するか若は鹿兒島港を出帆する能はず結局軍が機帆船に積み換へを行ふ等凡ゆる手段を盡て入手し得たるは約一萬五千發に過ぎず多數の迫撃砲を確しながら戰鬪に際し其の成功を發揮し得ざりしは遺憾の極みなり

#### 3. 糧秣關係

集積量は各島嶼に依り若干の相違あるも各部隊概ね昭和二十年九月末頃迄の分を保有せり其の集積区分は彈藥と同様殆其の所要全量を各兵團部隊に交付し軍としては豫備糧秣を保有せず

#### 4 燃料

自動車燃料は常に缺乏状態に在りて作戦準備を阻害せしこと至大なり

作戦用燃料は各部隊をして嚴重に保管せしめたり

航空用燃料は昭和二十年一月に於て伊江島及沖繩北、中各飛行場に合計約五千余り集積しあり軍の状況緊迫に鑑み萬一を考慮し其の大部を主陣地帯内に移送集積し置き逐次所要に應じ前記各飛行場に補給する方式を取り漸次態勢變換に勉め特に友軍航空部隊の展開不能の見込み判然とせる三月以降極力之が促進努力せるも輸送難の爲意の如く進展せず戦闘開始後全量の三分の一内外を敵手に委するに至れり

#### 十四、築城及交通

1 築城は物量戦法對策として軍の最も重視せる事項の一なり

陣地編成は洞窟據點式とし洞窟の規模は一切の人員兵器、彈藥糧秣其の他の資材を之に收容し且其の強度は敵戦艦の主砲彈並に一屯爆彈に抗堪することを目途とせり戦闘開始迄に完成せる主陣地帯内洞窟の總延長は約百軒なり

沖繩島には大小無數の自然洞窟一大なるものは一千人以上を收容し得一散在し著しく軍の築城を容易ならしめたり

2 陣地編成に當りては敵の攻撃を受けざる正面よりの兵力増加を顧慮し各部隊は自隊の三倍兵力に應ずる築城の完成を期せんも昭和十九年十一月末實施せる作戦計畫の根本的變更並に之に起因する作戦準備日數の短少等の爲各部隊は自隊の築城のみを概成し得るに止まれり

3 對戦車築城は其の必要性を痛感して努力し肉攻據點たる峭壘陣地、對戦車地雷地帯及對戦車壕の構築並に主要交通路の阻絶、破壊等を実施せり就中對戦車壕は大規模徹底的に實施せんとす

る企圖なりしも作業の大部を飛行場設定に充當せしと作業日數の短少なりし爲意の如く進捗せざりしは遺憾なり  
々洞窟障地構築の爲には巨多なる坑木を必要とし一兵團にて最小限數十萬本を要せり是等坑木は沖繩島南部地區に於ては入手し難く遠く頭山嶽地帯に求めざるべからず之が爲軍は其の伐採地域を各兵團に區分配當し各兵團は之に基き夫々伐採班一師團に於て數百名の兵員を基幹とせり一を編成派遣し採木に従事せり坑木の伐採地域より築城地域への輸送力の貧弱なる爲玉として海運に依らざるべからず之が爲軍は全島内に於て収集し得たる列母約七十隻を各兵團に分屬し更に南方廻航の機帆船及輸送船の那霸港滯留期間を利用（之を間隙輸送と稱し船舶輸送司令部沖繩支部之に任ず）せり  
然れども昭和二十年一月以降は連日レイテ方面より飛來するの攻撃並に數度の大空襲に依り撃沈破せらるるもの多く且之を回避する爲夜暗を利用せざるべからざる状況となり所望の如く

陸

軍

輸送効率を發揮し得ざりき

築城の進度は坑木の入手量に依り決定すとは各部隊の聲にして事實坑木なくして洞窟は掘開する能はず之を強行せば崩壊死傷續出するのみ坑木の入手難不足が軍の築城を遲滞せしめたる點は眞に計り知るべからざるものありき

#### 道路の新設擴張

軍は捷號作戰準備の爲北、中飛行場地區と南部島尻地區との間に軍主力の機動路として四條の道路を補修若は新設に著手し其の作業方に概成せんとしありしが天號作戰に轉移後は其の必要なきに至れる爲之を中止し爾後は主陣地帯内特に首里南北に於ける砲兵機動の爲の道路網整備に専念せり

#### 十五通 信

#### 無線 通信

第十方面軍及大本營との間には二通信系を保持す  
軍隷下各島嶼守備兵團との間には航空通信をも含め概ね一通信



系を保持す

沖繩本島内に於ける無線通信は國頭支隊及び江島との間を除き開戦迄概ね訓練のみに止めたり

2 沖繩本島内有線通信

概ね所望の如く完備せり

伊江島と本部半島との間には海底線を敷設しあり

3 對砲爆掩護装置

無線送受信所は分散し且洞窟内に收容し一部のものはコンクリ

1 製とせり有線通信網中重要幹線は地下線とせり

4 電探は各主要島嶼に装置せり

沖繩本島於ては陸軍のみにては數ヶ所に設置し成績良好の際は百數十杆、普通六、七十杆の地點に於て敵の進入を探知せり

5 局地的補助通信として犬、鳩等も相當數準備し且之を利用せり

十六 海軍部隊との關係

1 南西諸島には沖繩方面海軍根據地隊司令官及第四海上護衛隊司

令官（同一指揮官兩者を兼ね）指揮下の部隊並に海軍航空隊關係の部隊配置せられあり根據地隊及海上護衛隊に屬するものは防空隊海岸砲台守備隊護衛艦艇部隊等ありて航空部隊の配置と相關聯し奄美大島、喜界島、沖繩本島、宮古島及南大東島に展開す

陸海軍の任務及指揮關係は皇土防衛要綱西部軍（後に第十方面軍）佐世保鎮守府間相互協定並に第三十二軍沖繩方面海軍根據地隊（第四海上護衛隊）間現地協定に據り明確ならしめたり

2 沖繩本島に在る海軍部隊の兵力、配置及指揮關係の概要次の如

兵力

總員約八千

陸戦の訓練を終たる戦闘員は二千數百名にして他は防衛召集者、工員、傭人等

兵器裝備

十二糎以上の海岸砲台	約四十
高射砲	數十
高射機關砲	約百
重機	約百五十
輕迫	數十
輕機、重擲	各約二百
配置	

大部を以て小祿海軍飛行場周邊一部を以て陸軍陣地内に展開す

指揮關係

根據地隊司令官指揮下の部隊（海軍航空部隊を含む）の大部は小祿飛行場周邊に於て戦闘開始と共に第二十四師團長の指揮下に入る  
 沖繩北飛行場地區及國頭地區に在る海軍部隊は戦闘開始と共に夫々特設第一聯隊長及國頭支隊長の指揮下に入る

第二十四師團の作戰地境外に在る一部の海岸砲台は平時より所在兵團長指揮下に入る

十七、沖繩島民の處理

作戰上の直接的要求は勿論非戦闘員の無益なる損害を避け且全般の食糧問題解決の爲に軍は昭和十九年夏以來南西諸島特に沖繩島民の疎開を強行せり其の概況左の如し

1. 島外疎開

軍隊軍需品輸送の空船を利用し沖繩島民は主として九州方面に又宮古、石垣方面の島民は主として台灣に夫々疎開せしめたり  
 戦闘勃發迄に島外疎開せる人員は前者約八萬、後者約二萬なり

2. 沖繩本島内に於ける疎開

非戦闘員の全員島外疎開は軍の希望するところなるも海上輸送力の制扼並に島民の不決斷に基因し疎開意の如く進捗せず茲に於て昭和十九年末軍は皇土警備要綱の主旨をも考慮し激戦を豫期し沖繩島南半部の住民を比較的安全なるべき北半部に疎開せ

しむるに決し概要左の如く處置せり  
六十才以上の老人並に國民學校在學以下の小兒は昭和二十年  
三月末迄に北半部に疎開を完了す  
軍は北行の空車輛及空機帆船を以て之が疎開を援助す  
爾余の非戦闘員は戦闘勃發必致と判斷せらるる時機に軍命令  
を以て一擧に北半部に疎開せしむ  
以上の處置は輸送力の貧弱、住宅の缺乏、食糧の取得難等幾多  
の悪條件に禍ひせられしも軍官民の協力に依り戦闘開始迄に(1)  
項に依るもの約三萬人、(2)項に依るもの亦略々同數に達せり

#### 十六 現地自活

一 沖繩は國內有數の人口密度大なる島にして米の産額極めて少く  
農産物の主体は甘藷にして年々二十數萬石の米を台灣より移入  
せざるべからざる状態にあり従つて軍は軍自体の爲のみならず  
島民の爲にも食糧を島外より集積すると共に極力現地自治に努  
めたり

食料の外自動車燃料、木造船、輕重車輛、一部藥品等の製造を  
實施せるも資源の貧弱、工業力の幼稚等の爲成果見るべきもの  
なり僅かに甘藷を材料とするアルコール(自動車燃料)月産額  
三百鎰に達せるは良成績の部に屬す  
二 海上交通長期に亘り遮斷せらるる場合の非常對策としては軍官  
民總べて甘藷に依存することとせり  
本島に於ける甘藷の生産は頗る豊富にして牛、馬、豚等の家畜  
全部を屠殺し軍官民の食糧とし且之が飼育に充當もありし甘藷  
も食糧に轉用せば沖繩本島に在る軍官民の現地自活は概ね可能  
と判斷せられた

#### 十九 敵情

##### 一 空襲

昭和二十年一月以降レイテを基地とする敵B24の一乃至數機を以  
てする計畫的偵察は連日實施せられたり當初偵察のみに任ぜる  
是等の敵機は逐次海上に在る大小の船舶、陸上の自動車等に對



しても徹底的に攻撃を加ふるに至り海陸の交通に至大なる影響を及ぼせり

本期間に受けたる大空襲は次の如く其の來襲機数は各々千機内外に達せり然れども陸上に於ける我が損害は殆皆無なりしのみならず我が防空部隊の對空戦闘漸次熟練巧妙となり毎回敵に相當の打撃を加へ得たり

昭和二十年一月三、四日

同 一月二十一、二日

同 三月一日

## 2. 海上の状況

敵空軍の活動激化に伴ひ敵潜水艦の跳梁又甚しく昭和二十年二月中旬以降に於ては輸送船に依る本土及台灣との交通殆杜絶し機帆船に依り僅かに小規模の輸送を繼續し得る状況となれり

## 3. 諜報

状況の緊迫すると共に炸艦火光事件頻發し且敵潜水艦に依る沖縄

人間諜の潜入説等喧傳せられしも各部隊及憲兵隊の努力は之が確證を擧ぐるに至らざりき

## 二十七 状況判断

昭和十九年末乃至昭和二十年初頭に於ける判断

比島作戦の推移竝に中部太平洋及南太平洋方面よりする敵兵力の集中輸送の状況と一般の戦略關係に鑑み敵の沖縄進攻は必至にして其の時機は昭和二十年三月乃至五月の間と判断せり然して從來敵が南西諸島に進攻する場合其の攻攻撃點は沖縄若は宮古と觀察せられありしも今や全般の状況特に推判せらるる敵の作戰企圖に鑑み宮古島には敵は進攻せずとの判断上下共に一致するに至れり

昭和二十年二月以降に於ける判断

比島作戦の急速なる悪化、硫黄島の戦勢、敵機動艦隊の行動は茲に敵の兵力集中状況等より判断し敵の沖縄進攻は三月末乃至四月上旬と豫察せり

1. 軍司令部の移轉

軍司令部は從來那覇、首里兩市の中間安里の蠶業試験所（軍司令官及軍幕僚部）及女子師範（軍各部）に位置しありしが状況緊迫に伴ひ一月十五日前者を首里に後者を津嘉山に移轉し戰闘配置に就けり津嘉山の洞窟司令部は既に概成し首里の洞窟司令部は當時工事中なりしも三月末概成せり

2. 人事異動

状況緊迫を前にし上下に亘り相當の人事異動あり此の人事は戰闘上の要求を輕視し便宜主義に墮せる點尠からず軍の戦力に悪影響を及ぼせること大なり

戰闘開始直前に於ける重要な人事異動左の如し

軍司令部 轉出 後任

航空主任參謀 益井中佐轉出 神少佐後任

作戰補助參謀 梶山少佐轉出 長野少佐後任

船舶主任參謀 八橋少佐轉出 不補充

軍兵器部長 梅津大佐 平岡大佐後任

第六十二師團長 本郷中將轉出 藤岡中將後任

歩兵第二十二聯隊長 田中大佐轉出 吉田中佐後任

獨立歩兵第十四大隊長 田村大佐轉出

獨立歩兵第十五大隊長 山本大佐轉出 飯塚大佐後任

右の外海軍根據地隊司令官及其の幕僚、縣知事及縣廳首腦部に大異動ありたり